

国際教室担当者が学び合える場の構築を目指して —横浜市国際教室ネットワーク勉強会からの発信—

横溝 亮 (横浜市立並木第一小学校)

1. 実践の場の特徴

- ・国際教室担当者(以下、担当者)が集まり、日々の指導の実践について学び合ったり、情報交換を行ったりする。
- ・教育委員会等の研修ではできない、担当者が今学びたいことや今困っていること等、自分たちに合った勉強をすることを目指している。

2. 実践の目標

- ・国際教室の運営について学ぶ。
- ・日本語指導等、国際教室での指導法について学ぶ。
- ・担当者がつながりをもち国際教室運営等の情報を共有する。

3. 具体的な実践の内容

本会は、担当者が自主的に立ち上げた勉強会で、隔月に開催している。

【立ち上げのきっかけ】

横浜市では、担当者の研修として、担当者会(業務連絡等)年4回、日本語指導者養成講座(日本語指導の基礎研修)年7回が行われている。他都道府県と比べても教育委員会が行う研修は少なくはない。国際教室の担当者は、担任と異なり、日本語指導などの日々の指導はもちろん、担任との連絡調整、国際教室の環境づくり等、わからないことが多い状況にある。また、校内に担当者が一人の場合が多く、各自が学校で奮闘している現状にある。

また、教育委員会の研修では、研修時間などの問題もあり、担当者同士が十分につながりを持つことができず、授業の内容を相談したり、情報を交換したりする場が少なかった。

そこで、平成26年11月に「横浜市国際教室ネットワーク」を立ち上げた。

【実践の内容】

年間6回開催し、今必要な知識やスキルを学ぶと同時に、参加者の知りたい内容について事前に考え、参加者全員で学ぶ。

平成27年度の実践内容

月	内容	月	内容
5月	日本語指導・個別の指導計画について (作成の仕方等)	11月	国際教室の授業内容検討 (国語科)
7月	日本語指導についてワークショップ	1月	JSLカリキュラムについて JSLカリキュラムを使った授業づくり
9月	国際教室一斉授業に向けて 授業内容検討 (日本語)	3月	今年度のまとめ 各学校の成果と課題

4. 勉強会の実際

5月「日本語指導個別の支援計画について」

【内容】

- ・特別の支援を必要とする児童の個別の支援計画の書き方を確認する。
- ・指導について話し合う。

【活動】

漢字圏、非漢字圏の児童に対する日本語指

導について個別の指導計画を書きながら、指導方法についても意見交換を行った。

11月「国際教室授業内容検討」

【内容】

- ・ 指導内容の検討
- ・ 指導をする項目の確認

【活動】

担当者の視点から、国語科の指導、日本語の指導について意見交換を行った。

3月「各学校の成果と課題」

【内容】

- ・ 国際教室の運営、授業についての成果と課題を出し合う。

【活動】

付箋を用いて、成果と課題を分類する中で、次年度の運営方法や指導法の情報を共有した。



5. 参加者の声

Q.横浜市国際教室ネットワーク勉強会(以下、勉強会)にどのような目的で参加していますか？

- ・ 特殊な学校事情を抱えていて国際教室の運営も独特なため、ほかの学校の国際教室の運営を知りたい。
- ・ 他校の国際教室の様子を知りたい。
- ・ 具体的に指導をどのように行っていくか学びたい。

Q.勉強会と委員会主催の研修との違いはどのような部分にあると考えますか？

- ・ 情報交換をするだけでなく、担当者同士で互いに学び合える場である。
- ・ 勉強会の活動に理解のある講師の先生方が来てくださる。
- ・ 教材とその使い方の共有ができる。

Q.勉強会に参加して良かったことはありますか？

- ・ 担当者としての視点で授業の検討ができたこと。
- ・ 外部の研究会の内容を学べたこと。
- ・ 実際に他の学校に行って、国際教室の様子や教材を見せていただいたこと。

6. 成果と課題

【成果】

- ・ 少人数で研修を行うことで、孤立しがちな担当者の日常的なつながりができ、情報交換を密に行うことができた。
- ・ 日本語等の指導方法以外の内容(他地域や大学等の研究会の様子)も取り上げることで、「国際教室担当」の専門性の向上、担当者としての意識の向上につながった。
- ・ 国際教室の授業を考える際、担当者の視点で授業を考えたり、アドバイスをしたりすることができ、校内の検討会では出されなかった意見が多く出された。
- ・ 日本語指導専門の大学教員にアドバイスをいただくことで、日本語指導、担当者としての専門性の向上につながった。

【課題】

- ・ 担当者として経験が浅い教員が多く、勉強会の内容に深まりがないことがある。また、外国籍児童の減少や校内事情により、連続して担当者にならない場合がある。
- ・ 年度当初には、担当して間もない教員の参加が多く、実践が積み重なっていかない。
- ・ 会を運営していく人材が不足している。